

目 次

はじめに	1
第1章 日本経済の動向と課題	3
第1節 2025 年半ばまでの経済の動向	4
1. マクロ経済の動き	4
2. 輸出、生産、企業収益、雇用等の動向	16
3. 国内民間最終需要（設備投資、個人消費、住宅投資）等の動向	39
第2節 物価・賃金の動向～好循環の実現に向けた動き～	66
1. 2025 年前半までの物価の動き	66
2. 賃金と物価の好循環の定着に向けた課題	89
第3節 財政の現状と課題	125
1. フローとストックの現状	125
2. コロナ禍以降の中小企業等への投資補助金の実績と効果	145
第2章 賃金上昇の持続性と個人消費の回復に向けて	159
第1節 個人消費の回復に向けて	160
1. 消費行動はどのように変化しているか	160
2. どのような所得増が消費を押し上げるのか	172
3. 予想物価上昇率の高まりはどのような経路で消費を押し下げるのか	179
4. 将来不安の高まりがどのように貯蓄を押し上げるのか	195
第2節 持続的な賃金上昇の実現に向けて	203
1. 賃金上昇の広がりはどの程度みられるのか	203
2. なぜ賃金上昇が実感されにくいのか	221
3. 賃金の下方硬直性は解消したか	236
第3節 労働市場の長期的な変化と課題	249
1. 過去 30 年にわたり労働供給・需要はどのように変化したか	249
2. 転職による円滑な労働移動の活発化に何が必要か	270

第3章 変化するグローバル経済と我が国企業部門の課題	291
第1節 我が国のグローバル経済との関わりにおける変化と課題	293
1. 経常収支からみる日本経済の構造	293
2. 我が国企業とグローバルバリューチェーンとの関わり	328
3. 外需が減少した場合の各産業への影響と経済連携を通じた自由貿易推進の重要性	344
第2節 我が国の企業行動における長期的な変化と課題	356
1. 過去30年程度の企業行動の長期的な変化	356
2. 大企業等における変化～海外展開の動向とその国内部門への影響を中心に～	368
3. 中小企業の収益性向上に向けた課題	390
おわりに	403
付図	409
付注	429
参考文献	477
長期経済統計	485
図表索引	507

コラム

1－1	関税引上げの影響と需要の価格弾力性について……………	14
1－2	住宅ローン金利上昇の家計への影響……………	60
1－3	物価上昇が継続する下での企業の価格設定行動の変化……………	77
1－4	家計最終消費支出デフレーターと消費者物価指数の関係……………	87
1－5	我が国の長期金利、超長期金利の動向について……………	142
2－1	中古品消費の動向について……………	191
2－2	リスク回避度と貯蓄率……………	200
2－3	新卒初任給のばらつきに変化はあったか……………	212
2－4	人手不足にもかかわらず賃金上昇が抑制された背景と近年の変化 ～「2024 年度日本経済レポート」における議論の概要～ ……	236
2－5	労働時間に関する統計の違い……………	258
3－1	財輸出入に係る国際収支統計と貿易統計の関係、再輸出品の動向…	304
3－2	経常収支と為替レート of 双方向の関係について……………	324
3－3	国内市場において企業の寡占化は進んでいるのか……………	386